

## 交通栄誉章緑十字金章受章にあたって



このたびは、交通栄誉賞緑十字金章を受章させていただき、ありがとうございます。勤務するバス会社や建設会社、地域のみなさん、家族とりわけ家内の支えがあつての受章だと思い深く感謝しています。

この際、自己紹介と交通安全について私なりの思いを述べさせていただきます。

私は、昭和 43 年に友人の影響で自動二輪免許を取得し、昭和 45 年に普通免許を取得しましたが、それ以来 54 年間無事故・無違反で過ごすことができました。

私が幼いころ、自宅周りの除雪作業は、「ばんばスコップ」(木製の雪かきスコップ)などを使って手作業で行っていたのですが、これが大変な重労働で、両親が雪かき作業をする姿を見て、大きくなったらブルドーザで除雪して親に楽をさせてやりたいという『夢』から建設会社に入社しました。

建設会社では、ブルドーザ、バックホーや生コンダンプ等の念願の大型重機を運転し、貴重な体験をさせていただきました。この建設会社のミーティングで「ヒヤリ・ハット」や「危険予知」についての講習を受け、「見通しの悪い交差点の陰からボールが転がってきた場合、子どもが飛び出してくるのではないか」「もしカーブで対向車が来たら」等の予測運転が必要なことを学びました。

この建設会社では約 30 年勤務しましたが、脊椎管狭窄症のためやむなく退職しました。その後、現在までバス会社に勤務し、飛騨市コミュニティバスで保育園児から小中学生、高齢者まで幅広い年代のみなさんに接することができ、楽しくバスを運行しています。

「安全運転」といいますが、いったい何をどうすれば安全運転なのか一口で言い表すのは難しいことです。もちろん交通法令を守ることは当然のことですが、相手（他の運転手や歩行者）への思いやりやマナーなどの精神面が必要なのだと思います。中部電力で勤務していた父から「夫婦けんかをしていたとしても、出勤時には奥さんに気分よく送り出してもらおうよう上司に言われた。」と教えられたことを覚えています。「一年の計は元旦にあり」という言葉がありますが、一日の始まりは朝にあるということなのだと思います。

私自身、「常に慌てず時間にゆとりをもった運転」に心がけており、これが安全運転の秘訣だと思っています。今回は大変名誉な表彰をいただきましたが、初心を忘れず、危険予知を思い出しながら日々「安全運転」に努めたいと思います。

令和 7 年 1 月 15 日

宮腰 龍彦